



砂漠ドライブ

マルハバン。キューフ ハールク？

3月3日、久しぶりに砂漠へ行きました。日に日に気温が30度を下回らなくなり、砂漠シーズンが終わりに近づいています。この日も、暑くなる予報だったので朝早くに出発しました。今回向かったのは、アブダビから1時間30分ほどかかる、スエイハンとアルアインの間くらいに位置するアルヤハーという場所です。以前、光本健次先生をお連れしたこともあります。上の写真を見ていただくとお判りいただけますが、眺めも最高で気分転換にはもってこいの場所です。今回は6台で走行しました。私的には運転もしやすく快適でした。



— 出来事 —

- 来月1日～10日モロッコに行ってきます。ISF(International School Federation)主催のGymnasiade School Summer Gamesに参加します。
- 森園捺海さ((2018年度国際武道大学大学院卒)がフジェイラにて女子柔道指導を開始します。

今月のアラビア語

「アンタ ラーズィム タシュラフ マイー」

意味：あなたは水を飲むべきだ(男性用)

شكرا

シユクラン日記

4月号

デモンストレーション

3月10日、ヤス マリーナ サーキットにてイベントが行われました。イベント2日前、スポーツを代表して柔道のデモンストレーションをしてほしいと教育省関係者から連絡がありました。勿論、喜んでお受けしました。言われたのは、「王族の前でデモンストレーションをする。時間は9時～16時の間。いつ来るか分からないから9時前には来てください」のみです。私も慣れたもので、「No Problem (問題ない)、インシャラー」と答えました。

しかし、練習を開始しましたが全く情報がない為、少し焦りました。デモンストレーションの時間、何が出来る、何をしたいのか、何をすればいいのか、何時からなのか、どこですのか、など、情報は全くなし。とりあえず、15分以内の内容を作ればなんとかなるだろうと考え、直ぐに選手を集め練習を開始。金曜日も朝からみっちりデモンストレーションの練習をしました。即興で作ったにも関わらず、意外に良いものができました。



イベントには、教育省の大臣であるフセイン氏 (H.E. Hussein Al Hamadi) が来られ、柔道のデモンストレーションをじっくりとご覧になりました。後ほど、教育省関係者からお聞きしたところ、フセイン氏はとても感銘を受け、柔道に対して興味を持たれたそうです。今回のイベントもその関係で柔道を選んでもいただいたそうです。少しずつではありますが、柔道の知名度が上昇してきているようにも思います。4月

には UAE オリンピック選手協会と UAE 教育省の共同開催の UAE スクールオリンピック、更に5月にはワールドスクールオリンピックも開催されるということで益々柔道の発展に力が入っております。

アラブチャンピオンシップ

3月17～19日、エジプトへ行ってまいりました。アラブチャンピオンシップへの参戦の為です。今回は、-73Kg級のカーリーファと-57Kg級のメイサを引率しました。結果をご報告させていただきますと、カーリーファは3位入賞。メイサは一回戦敗退という結果になりました。

エジプトでの試合は、初体験ばかりでした。生徒と監督の大声での言い合い、試合中の殴り合い、観客席での殴り合い、様々な場所でケンカが勃発していました。試合も進行が遅く、13時に始まり23時に全試合が終了しました。

メイサの初戦は、エジプトの選手でした。試合前に多くの殴り合いを見ていたメイサは完全に会場の雰囲気呑まれてしまい何もできずに敗退。今までにない会場の雰囲気、一歩も足が出ないという言葉が当てはまるほど。足がすくんでいるのが目に見えて分かりました。彼女も今までにないくらい悔しかったのでしよう。試合後、悔しさを隠しきれていませんでした。これも勉強ですね。どんな状況でも自分の力を出せなければ勝つことができません。彼女自身、気合が入っていた分、ショックは大きいでしょう。

カーリーファは一回戦、二回戦と順当に勝ち上がりました。三回戦、優勝候補と対決でした。対等に試合が進み開始1分、技ありを取られました。しかし、その後すぐにチャンスが訪れました。カーリーファが絞め技に入りました。相手はタップしたものの主審は「まで」を宣告。ジャッジの結果、理由は道着が首にしまっておらず、顎にかかっていたという

ものでした。

しかし、カーリーファは納得がいかず審判に対し抗議をし続けました。勿論、選手が審判に抗議しても意味はありません。まだ2分もあり、この時カーリーファが試合を先行していました。相手は逃げていたため、指導1が相手に入り、勝機はありました。しかし、彼は頭をリセットし、もう一度やってやろうという気持ちにはなっていません。その後2分間、彼はずっと抗議をし続けました。完全にパニックになっていました。久しぶりに発狂した私の声も全く聞こえておらず、そのまま試合終了。敗者復活戦へ進みました。

敗者復活戦では、まだ先ほどの悔しさが抜けておらず覇気のない試合をしていました。ここが私のまだ足りないところの一つですね。選手の気持ちを再復活させることができません。一回落ちた気合を次の試合までに復活させることは、とても至難の技ですね。何とか試合には勝つことができ、銅メダルをゲットできましたが、私自身、更に課題が残る大会でした。



UAE School Olympic



4月13～14日、UAEオリンピック協会とUAE教育省共同主催のUAEスクールオリンピックが今年も開催されました。今回のスクールオリンピックは、7つの種目が行われました。柔道、フェンシング、水泳、テコンドー、アーチェリー、バドミントン、アスレチック。各協会に、良い選手を育てる為に毎年開催されています。

昨年まで各学校は「柔道＝柔術」という考えであったため、昨年は正直ブラジリアン柔術の大会を柔道のルールで実施した様な大会でした。しかし、今年は、教育省から柔道の選手を参加させるように各学校へアナウンスがあったため、男子230人、女子50人が参加、素晴らしい試合になりました。



今回の大会は参加人数も今までより多く、UAE柔道史上初となる女子の大会を開催することができました。これは、私も驚きを隠せませんでした。UAE柔道会だけでなく中東・アラブ諸国での女子

柔道の実施は大変大きな進歩であります。今回参加した女子柔道は柔術の経験がなく、純粋に柔道を始めたと言っていました。UAEにも柔術未経験の生徒が居るのですね。更に、初めてハンデキャップがある2人の選手が試合を行いました。一人は視覚障害があります。もう一人は他の子よりも体の成長が遅れるという障害です。



ハンデキャップがある選手が試合をしたのはUAEスクールオリンピックが始まって以来、初めて試合だとの事です。これは女子の大会以上に大きな進歩だと感じております。試合後、彼らの親が会場に降りてきました。挨拶に行くと、満面の笑みを浮かべ「シュ克蘭、シュ克蘭」と私に言いました。

ここにUAEスクールパラリンピックが開始・開催されたといっても過言ではないと感じております。各競技、「ニューテクノロジー」を駆使し、UAEにアピールしています。例えば、テコンドーでは、正確なポイントを測るジャケットを着たり、水泳では世界水泳ができる会場で実施したりと素晴らしい大会を各競技行っております。その中で、柔道は「ニューチャレンジ」を行いました。「テクノロジーを使わず、子ども達の未来に繋がる」そんな大会になりました。そのニューチャレンジは見事に大成功。初の女子大会、更に障害のある子供の大会。今回の大会は、未来が開けた第一歩になったのではないのでしょうか。

その裏には、UAEで柔道が始まって40年弱というUAE柔道の歴史がありました。約40年前、米田豊明先生がUAEへ来られ、柔道を教え始めました。始めはドバイから柔道が広まり、今ではUAE国内に14クラブの柔道場があります。プライベートクラブを合わせると1カ所です。

今年(2018年度)UAEスクールオリンピックにてUAE教育省のDr.サラム・カリーム氏(スポーツプログラム専門家・保健体育兼UAE柔道連盟役員)との協力で大きく柔道の発展に近づくことができました。サラム氏は、「米田先生と出会って12年間、先生と共に柔道発展に向けて頑張ってきた。今回柔道の大会で新たな挑戦ができた。」と言っていました。

今年、柔術の選手が出てこなかったのは、柔道とブラジリアン柔術との違いが徐々に認知されたからだと感じております。まだまだスタート地点に立ったばかり、これからの一步一步が柔道発展のカギとなって行きます。

(UAE柔道連盟 原口直也)